

CLUSTERPRO

MC ProcessSaver 1.2 for Linux

syslog メッセージ一覧

© 2014(Mar) NEC Corporation

- フォーマットについて
- 監視対象となる syslog メッセージ
- ProcessSaver 運用メッセージ
- padmin コマンドのメッセージ
- pcheck コマンドのメッセージ
- 消滅監視の異常メッセージ
- ストール監視の異常メッセージ
- pfile 関連のメッセージ
- メッセージ出力例
- 障害解析情報の採取

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Linux（以後 ProcessSaver と記載します）の出力する syslog のメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

(1) 商標および登録商標

- ✓ Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ✓ Red Hat は、Red Hat,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ✓ SUSE は、米国およびその他の国における SUSE LLC.の登録商標または商標です。
- ✓ CLUSTERPRO は、日本電気株式会社の登録商標です。
- ✓ ProcessSaver は、日本電気株式会社の登録商標です。
- ✓ その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

目次

1.	フォーマットについて	1
2.	監視対象となる syslog メッセージ	1
3.	ProcessSaver 運用メッセージ	2
3.1.	LOG_ERR.....	2
3.2.	LOG_WARNING.....	2
3.3.	LOG_INFO.....	3
4.	padmin コマンドのメッセージ	4
4.1.	LOG_ERR.....	4
4.2.	LOG_WARNING.....	5
5.	pcheck コマンドのメッセージ	6
5.1.	LOG_ERR.....	6
5.2.	LOG_WARNING.....	9
6.	消滅監視の異常メッセージ	10
6.1.	LOG_ERR.....	10
6.2.	LOG_WARNING.....	12
6.3.	LOG_INFO.....	18
7.	ストール監視の異常メッセージ	19
7.1.	LOG_WARNING.....	19
8.	pfile 関連のメッセージ	27
8.1.	LOG_ERR.....	27
8.2.	LOG_WARNING.....	33
9.	メッセージ出力例	34
9.1.	pcheck の起動、停止、再読み込み、再起動	34
9.2.	通常運用時.....	34
9.3.	リトライオーバー発生時.....	35
9.4.	ストール監視運用時	37
10.	障害解析情報の採取	38
10.1.	ProcessSaver の障害解析情報.....	38

1. フォーマットについて

syslog に出力するフォーマットは以下のとおりです。

```
May 24 09:35:26 hostname xxxx[yyyy]: msg
```

- xxxx :コマンド名 (padmin または pcheck)
- yyyy :pid
- **msg** :メッセージ

syslog の facility と level は以下の通りです。

```
facility : LOG_USER
```

```
level : LOG_ERR または LOG_WARNING または LOG_INFO
```

2. 監視対象となる syslog メッセージ

pcheck(1M) が出力する syslog メッセージには、プロセス監視で復旧不可能なエラーを報告する致命的なものがあります。これらのメッセージは運用管理ソフト等により監視することをおすすめします。対象となる syslog メッセージは下記の通りです。

なお、下記以外のメッセージの監視については、特に必須ではありません。

消滅監視によるリトライオーバーのメッセージ(3種類)

```
RETRY_OVER:CONTINUE
```

```
RETRY_OVER:SHUTDOWN
```

```
RETRY_OVER:EXIT
```

処置

対象プロセスの消滅を検出し、一定回数リトライしても再起動できない状態です。

対象プロセスが起動不可の原因を調査してください。

3. ProcessSaver 運用メッセージ

以下に ProcessSaver の運用メッセージの説明を記載します。

3.1. LOG_ERR

SIGHUP Catch (xxx)!!

説明: シグナル SIGHUP を受信しました。

SIGINT Catch (xxx)!!

説明: シグナル SIGINT を受信しました。

SIGTERM Catch (xxx)!!

説明: シグナル SIGTERM を受信しました。

SIGQUIT Catch (xxx)!!

説明: シグナル SIGQUIT を受信しました。

Stop 'pcheck 名' !!

説明: シグナル SIGTERM を受信したため、pcheck を終了しました。

Undefine signal Catch (xxx)!!

説明: その他のシグナルを受信しました。

3.2. LOG_WARNING

shutdown 'pcheck 名'

説明: pcheck を終了しました。

Try to restart ('監視対象プロセス名')

説明: 監視対象プロセスの再起動を開始します。

'pcheck 名' shutdown

説明: pcheck を終了しました。

('監視対象プロセス名', pid=yyy) Up

説明: 監視対象プロセスが起動されていることを確認しました。
または監視対象プロセスを起動しました。

('監視対象プロセス名', pent_id=yyy) Monitor start

説明: 監視対象プロセスの監視を再開しました。

('監視対象プロセス名', pent_id=yyy) Monitor stop

説明: 監視対象プロセスの監視を停止しました。

'pcheck 名' wait... by /opt/HA/PS/bin/pcheck.ignore

説明: プロセス監視停止用の一時ファイルが作成されているため、
プロセス監視を停止した状態で pcheck を起動しました。

'pcheck 名' start by /opt/HA/PS/bin/pcheck.ignore

説明: プロセス監視停止用の一時ファイルを削除したため、プロセス監視を
開始しました。

3.3. LOG_INFO

Command execute. [コマンド名] pfile= ' pfile 名 '

説明: padmin コマンドを実行しました。

Command execute. [コマンド名] pfile= ' pfile 名 ' (arg="XXX")

説明: padmin コマンドを引数に "XXX" を指定して実行しました。

4. padmin コマンドのメッセージ

以下に padmin コマンドのメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

4.1. LOG_ERR

lockf(F_LOCK) fail. errno = xxx

説明: ファイルのロックに失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

lockf(F_ULOCK) fail. errno = xxx

説明: ファイルのアンロックに失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

lockfile open(2) fail. Lockfile = xxx

説明: ロックファイルのオープンに失敗しました。

処置: システムファイルの上限値を上げるか、オープンしているファイルをクローズしてから、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmat(2) fail. errno = xxx

説明: 共有メモリの確保に失敗しました。

処置: システムの状態を確認して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmget(2) fail. errno = xxx

説明: 共有メモリの確保に失敗しました。

処置: システムの状態を確認して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

4.2. LOG_WARNING

illegal parameter

説明: change オプションに指定されたパラメータが正しくありません。

処置: change オプションに正しいパラメータを指定してください。

monitor_interval illegal value

説明: change オプションに指定された monitor_interval の値が正しくありません。

処置: change オプションの monitor_interval の値を正しく指定してください。

msg_check_interval must be less than monitor_interval

説明: change オプションに指定された msg_check_interval の値が monitor_interval で指定された値を超えています。

処置: change オプションの msg_check_interval の値は、monitor_interval より小さな値を指定してください。

msg_check_interval illegal value

説明: change オプションに指定された msg_check_interval の値が正しくありません。

処置: change オプションの msg_check_interval の値を正しく指定してください。

5. pcheck コマンドのメッセージ

以下に pcheck コマンドのメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

5.1. LOG_ERR

Activation failed. Product key name is not been entry.

説明: ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。

処置: ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

Activation failed. Cord word is generated by different product key name.

説明: ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。

処置: 発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

Activation failed. Cord word is generated by different host ID.

説明: ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。

処置: 発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

Activation failed. Trial term is expired.

説明: ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。

処置: 正式版のライセンスを登録してください。

illegal option

説明: 無効なオプションが指定されました。

処置: 同時に出力される Usage に従って正しいコマンドを再投入してください。

Usage : pcheck -f pfilename

Usage : pcheck -f pfilename -w waittime(second)

Usage : pcheck -f pfilename -t

lockf(F_ULOCK) fail. errno = xxx

説明: ロックファイルのアンロックに失敗しました。

処置: システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても

異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

lockfile open(2) fail. lockfile = xxx

説明: ロックファイルのオープンに失敗しました。

処置: システムファイルの上限値を上げるか、オープンしているファイルをクローズしてから、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

malloc(3) fail. errno = xxx

説明: メモリの確保に失敗しました。

処置: メモリの空き容量を増やすか、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmat(2) fail. errno = xxx

説明: 共有メモリの確保に失敗しました。

処置: システムの状態を確認し、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmctl fail. errno = xxx

説明: 共有メモリの開放に失敗しました。

処置: システムの状態を確認し、手動で共有メモリを回収して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmdt(2) fail. errno = xxx

説明: 共有メモリの開放に失敗しました。

処置: システムの状態を確認し、手動で共有メモリを回収して、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

shmget(2) fail. errno = xxx

説明: 共有メモリの確保に失敗しました。

処置: システムの状態を確認し、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

(‘監視対象プロセス名’) RETRY_OVER:CONTINUE

説明: 対象プロセスの再起動回数がリトライ回数に達したため監視を終了します。

retry_over_action の記述に従って、他の動作を継続します。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

(‘監視対象プロセス名’) RETRY_OVER:EXIT

説明: 対象プロセスの再起動回数がリトライ回数に達したため監視を終了します。

retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了します。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

(‘監視対象プロセス名’) RETRY_OVER:SHUTDOWN

説明: 対象プロセスの再起動回数がリトライ回数に達したため監視を終了します。

retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了します。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

5.2. LOG_WARNING

can not remove xxx (errno=yyy)

説明: ロックファイルの削除に失敗しました。

処置: 動作に支障ないため、特に処置の必要はありません。

SHUTDOWN caused by ('監視対象プロセス名')

説明: 対象プロセスに異常が発生したため、pcheck を終了します。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

Something wrong with Sharedmemory

説明: 共有メモリが不正です。

処置: 共有メモリの空き容量を増やすか、システムの再起動を行ってください。

システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

('監視対象プロセス名') FATAL

説明: 対象プロセスに異常が発生したため、pcheck を終了します。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

6. 消滅監視の異常メッセージ

以下に消滅監視の異常メッセージの説明、および処置方法を記載します。

6.1. LOG_ERR

Can't change status now!!

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get childproc_kill_mode flag from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get monitor_cnt from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get msg_check_interval from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get msg_ptr from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get shm_top_ptr from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Set pid fail ('監視対象プロセス名')

説明: pcheck の起動時に対象プロセスが動作していないことを検知しました。

処置: 監視対象プロセスが起動されていることを確認してください。

起動されていれば、pfile の監視対象プロセス名が正しいことを確認してください。

Process count check error. Process count xxx (yyy)

説明: 監視対象プロセスの数が min_proc_count で指定された数値を下回ったことを検知しました。

処置: 監視対象プロセス数が減少した原因を調査してください。

-> fork fail (xxx). Suspend pcheck

説明: 対象プロセスの再起動に失敗しました。fork に失敗したため監視を中断します。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

6.2. LOG_WARNING

Can't get pcheck_ptr from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get pent_ptr from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get pent_header from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Can't get reserv message from shm

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

dumpfile close(2) fail. dumpfile = '共有メモリトレースファイル名', errno = yyy

説明: 共有メモリトレースファイルのクローズに失敗しました。

処置: pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。
pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

dumpfile open(2) fail. dumpfile = '共有メモリトレースファイル名', errno = yyy

説明: 共有メモリトレースファイルのオープンに失敗したか、オープン可能なファイル数を超過しました。

処置: オープンされている共有メモリトレースファイルがあれば、クローズを行ってからシステムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Fail to dismiss Zombie ('監視対象プロセス名')

説明: 監視対象プロセスがゾンビプロセスのため、終了に失敗しました。

処置: 手動で対象プロセスの再起動を行ってください。

getrlimit fail. errno = xxx

説明: プロセススタックサイズの取得に失敗しました。

処置: pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Get time fail. errno = yyy

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

illegal message

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

illegal return value from check_restart

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Process ['監視対象プロセス名'] down

説明: 監視対象プロセスが消滅したことを検知しました。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

Process ['監視対象プロセス名', pid=yyy] down

説明: 監視対象プロセスが消滅したことを検知しました。

処置: 対象プロセスが消滅した原因を調査してください。

putenv fail. errno = xxx

説明: タイムゾーンの設定に失敗しました。

処置: pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。

pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

Restart fail ('監視対象プロセス名')

説明: 再起動スクリプトがエラー終了しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

setrlimit fail. errno = xxx

説明: プロセススタックサイズの設定に失敗しました。

処置: pcheck の再起動またはシステムの再起動を行ってください。

pcheck の再起動、システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

strdup fail (xxx)

説明: 内部エラーが発生したため、監視対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

write(2) fail to dumpfile. dumpfile = '共有メモリトレースファイル名', errno = yyy

説明: 共有メモリトレースファイルの書き込みに失敗しました。

処置: 運用に支障ないため、処置は特に必要ありません。

-> clear shell fail (another error) ('監視対象プロセス名')

説明: 予期せぬエラーのため、クリアコマンド(clear_cmd)の再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトの妥当性を確認してください。

-> clear shell fail (exit status) ('監視対象プロセス名')

説明: 再起動スクリプトが終了ステータス以外で終了したため、クリアコマンド(clear_cmd)の起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトの妥当性を確認してください。

-> clear shell fail (signal accept) ('監視対象プロセス名')

説明: 再起動スクリプトがシグナルを受信したため、クリアコマンド(clear_cmd)の再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトを確認してください。

-> execvp (2) fail (xxx)

説明: 対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> PS_CLEARED ('監視対象プロセス名')

説明: クリアコマンド(clear_cmd)の実行に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> PS_RESTART_FAIL ('監視対象プロセス名')

説明: 監視対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> restart shell fail (another error) ('終了ステータス')

説明: 予期せぬエラー原因で、対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> restart shell fail (exit status) ('終了ステータス')

説明: 再起動スクリプトが終了ステータス以外で終了したため、
対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> restart shell fail (signal accept) ('終了ステータス')

説明:再起動スクリプトがシグナルを受信したため、対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置:再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

-> waitpid(2) fail (xxx)

説明:対象プロセスの再起動に失敗しました。

処置:再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

'pcheck 名' is already execute

説明:指定されたプロセスは既に起動されています。

処置:プロセスの二重起動は行えません。どちらかのプロセスを終了してください。

該当するプロセスが動作していなければ、共有メモリの回収を行って、システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

6.3. LOG_INFO

-> PS_CLEARED ('監視対象プロセス名')

説明: クリアコマンド(clear_cmd)の実行に失敗しました。

処置: 再起動スクリプトが単体で実行できるか確認してください。

単体で実行できる場合、以下を確認してください。

- ・再起動スクリプトに実行権が付与されていること
- ・再起動スクリプト中のコマンドへの PATH が通っていること
- ・再起動される監視対象プロセスの起動完了までに時間がかかるため pcheck が先に監視を再開していないこと

7. ストール監視の異常メッセージ

以下にストール監視の異常に関するメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

7.1. LOG_WARNING

Can not killed process: pid = xxx

説明: ストール状態のプロセスを強制終了させようとしたことが失敗しました。

処置: 該当プロセスを手動で終了させてください。

Find Process Stall : pid = xxx: filename = 'pfile 名'

説明: ストールしたプロセスを検出しました。

処置: プロセスがストールしている理由を調査してください。

Find Process Stall : pid = xxx

説明: ストールしたプロセスを検出しました。

処置: プロセスがストールしている理由を調査してください。

Target process not exist: pid = xxx

説明: ストール状態のプロセスの強制終了を確認しました。

処置: プロセスがストールしている理由を調査してください。

Target process exist. send to SIGKILL: pid = xxx

説明: ストール状態のプロセスを強制終了させようとしたことが、プロセスが設定したシグナルで終了しなかったため SIGKILL による強制停止を行いました。

処置: プロセスがストールしている理由を調査してください。

Killed Process: pid = xxx

説明: ストール状態のプロセスを強制終了させました。

処置: プロセスがストールしている理由を調査してください。

INIT: function pointer is not found

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT:lck_log_put_p pointer is not found

説明:内部エラーが発生しました。

処置:pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT:argument must be specified.[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリの引数が不正です。

処置:INIT エントリの引数を正しく指定してください。

INIT:argument is invalid value.[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリの引数値が不正です。

処置:INIT エントリの引数値を正しく指定してください。

INIT:malloc(3) fail.[xxx]

説明:内部エラーが発生しました。

処置:pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT:log file name is not found.[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリのログファイル名の指定が不正です。

処置:INIT エントリのログファイル名を正しく指定してください。

INIT:log file name is too large[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリのログファイル名が長すぎます。

処置:ログファイル名は絶対パスで 1024 文字以内で指定してください。

INIT:judgment string error[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリの判定文字列の指定が不正です。

処置:INIT エントリの判定文字列を正しく指定してください。

INIT:search keyword error.[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリの正規表現の検索文字列の指定が不正です。

処置:INIT エントリの正規表現の検索文字列を正しく指定してください。

INIT:search keyword is too large.[xxx]

説明: pfile 中の INIT エントリの正規表現の検索文字列が長すぎます。

処置: 正規表現の検索文字列は 1024 文字以内で指定してください。

INIT:regcomp(3) error [xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT:target file is open error.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT:target file is seek error.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: maxopenfile count must be specified.[xxx]

説明: pfile 中の INIT エントリの最大オープンファイル数の値が不正です。

処置: INIT エントリの最大オープンファイル数の値を正しく指定してください。

INIT: maxopenfile count is invalid, use the default.[xxx]

説明: pfile 中の INIT エントリの最大オープンファイル数の値が想定範囲外のためデフォルト値が指定されました。

処置: INIT エントリの最大オープンファイル数の値を正しく指定してください。

INIT: malloc(3) fail.[xxx][bef]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: malloc(3) fail.[xxx][now]

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

INIT: maxthread count must be specified.[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリの最大起動スレッド数の値が不正です。

処置:INIT エントリの最大起動スレッド数の値を正しく指定してください。

INIT: maxthread count is invalid, use the default.[xxx]

説明:pfile 中の INIT エントリの最大起動スレッド数の値が想定範囲外のためデフォルト値が指定されました。

処置:INIT エントリの最大起動スレッド数の値を正しく指定してください。

EXEC: function pointer is not found

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: lck_log_put_p pointer is not found

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: system data error [stall_msgp:NULL]

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: argument must be specified.[xxx]

説明:pfile 中の EXEC エントリ引数が不正です。

処置:EXEC エントリ引数を正しく指定してください。

EXEC: status error [xxx]

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: argument is invalid value.[xxx]

説明:pfile 中の EXEC エントリの引数値が不正です。

処置:EXEC エントリの引数値を正しく指定してください。

EXEC: failover time must be specified.[xxx]

説明:pfile 中の EXEC エントリのフェイルオーバー時間の値が不正です。

処置:EXEC エントリのフェイルオーバー時間の値を正しく指定してください。

EXEC: failover time is invalid, use the default.[xxx]

説明:pfile 中の EXEC エントリのフェイルオーバー時間の値が想定範囲外のためデフォルト値が指定されました。

処置:EXEC エントリのフェイルオーバー時間の値を正しく指定してください。

EXEC: time(2) fail.[xxx]

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target filename error.[NULL]

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file open error.[xxx][xxx]

説明:内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stat(2) fail.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file seek error.[xxx][xxx][seek_pnt:xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file rotation.

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file read error.[ret=xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: found a message[xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: target file seek error.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: found an error.

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: Normal End.

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function_info pointer is not found.

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function_info pointer is not found.[bef]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: function_info pointer is not found.[now]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: the openfile count exceeded the maxopenfile count.

説明: 前回のオープンファイル数と現在オープンファイル数が最大オープンファイル数を超えています。

処置: INIT エントリの最大オープンファイル数の値を最適値へ変更してください。

EXEC: opendir(3) error.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: stat(2) error.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: readlink(2) error.[xxx][xxx]

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

EXEC: the thread count exceeded the maxthread count.

説明: 前回起動スレッド数と現在起動スレッド数が最大起動スレッド数を超過しています。

処置: INIT エントリの最大起動スレッド数の値を最適値へ変更してください。

QUIT: function pointer is not found.

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

QUIT: lck_log_put_p pointer is not found.

説明: 内部エラーが発生しました。

処置: pcheck の再起動を行ってください。pcheck の再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

8. pfile 関連のメッセージ

以下に pfile 関連の異常に関するメッセージの説明、および行うべき処置方法を記載します。

8.1. LOG_ERR

can not load pfile information, pfile = 'pfile 名'

説明:pfile の個別部情報(PENT)に不正な行があります。

処置:個別部情報(PENT)を正しく設定してください。

checkproc length is too long

説明:pfile 中の checkproc オプションが長すぎます。

処置:checkproc オプションは 255 文字以内で指定してください。

Clear_shell length is too long

説明:pfile 中の clear_cmd オプションが長すぎます。

処置:clear_cmd オプションは絶対パスで 255 文字以内で指定してください。

Clear_shell must be specified

説明:pfile 中の clear_cmd オプションが不正です。

処置:clear_cmd オプションはスクリプト名を絶対パスで 255 文字以内で指定してください。

Grace (xxx) is illegal parameter

説明:pfile 中に指定された grace_time が不正です。

処置:grace_time を正しく指定してください。

Grace (xxx) must be digit and grater than 0

説明:pfile 中に指定された grace_time に 0 より小さい値が指定されています。

処置:grace_time は、0~60*60*24*360 秒の値を正しく指定してください。

grouptag length is too long

説明:pfile 中の grouptag オプションが長すぎます。

処置:grouptag オプションは 255 文字以内で指定してください。

grouptag must be specified

説明:pfile 中の grouptag オプションが不正です。

処置:grouptag オプションを正しく指定してください。

include_strings length is too long

説明:pfile 中の include_strings オプションが長すぎます。

処置:include_strings オプションは 255 文字以内で指定してください。

include_strings must be specified

説明:pfile 中の include_strings オプションが不正です。

処置:include_strings オプションを正しく指定してください。

Invalid key: xxx

説明:pfile 中の共通部情報(PARAM)に不正なエントリがあります。

処置:共通部情報(PARAM)に不正なエントリがないかを確認してください。

Invalid value: IPCKEY value=xxx

説明:pfile 中の IPCKEY が不正です。

処置:IPCKEY をシステムで一意となる 0x00000001~0x7ffffff の範囲で正しく設定してください。また、OS や他製品が使用する共有メモリの key と競合しないように、ipcs(8) コマンドを使用して確認してください。

Invalid value: MONITOR_INTERVAL value=xxx

説明:pfile 中の MONITOR_INTERVAL が不正です。

処置:MONITOR_INTERVAL を 1~60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください。また MSG_CHECK_INTERVAL より大きい値で、MSG_CHECK_INTERVAL の整数倍の値を設定してください。

Invalid value: MSG_CHECK_INTERVAL value=xxx

説明:pfile 中の MSG_CHECK_INTERVAL が不正です。

処置:MSG_CHECK_INTERVAL を 1~60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください。

また MONITOR_INTERVAL より小さい値を設定してください。

min_proc_count must be digit and grater than 0

説明:pfile 中の min_proc_count オプションが設定されていないか、
0 以下の値が指定されています。

処置:min_proc_count オプションを 1~64 の範囲で正しく設定してください
(単位は個)。

min_proc_count must be specified

説明:pfile 中の min_proc_count オプションが正しく指定されていません。

処置:min_proc_count オプションを正しく指定してください。

option length is too long

説明:pfile 中のオプションパラメータに指定できる文字数を超えています。

処置:オプション情報を正しく指定してください。

option must be specified

説明:pfile 中のオプションパラメータの指定が不正です。

処置:オプション情報を正しく指定してください。

option tag is illegal parameter

説明:pfile 中のオプションパラメータが不正です。

処置:オプション情報のキーに不正パラメータが指定されていないことを
確認してください。

pfile init fail. pfile = 'pfile 名'

説明:pfile の初期化に失敗しました。エラーの詳細は直前のログを確認
してください。

処置:pfile が正しく指定されているか確認してください。

pname_full_match must be specified. enable or disable

説明:pfile 中の pname_full_match オプションに指定された値が不正です。

処置:pname_full_match は disable または enable を正しく設定してください。

pname_full_match is enable or disable

説明:pfile 中の pname_full_match オプションに指定された値が不正です。

処置:pname_full_match は disable または enable を正しく設定してください。

Pname length is too long

説明:pfile 中の監視対象プロセス名が長すぎます。

処置:監視対象プロセス名は、引数を含め 1020 文字以内で指定してください。

Pname must be specified

説明:pfile 中の監視対象プロセス名が正しく指定されていません。

処置:監視対象プロセス名は、引数を含め 1020 文字以内で正しく指定してください。

また監視対象プロセス名に:(コロン)が含まれる場合は、直前に¥(バックスラッシュ)を挿入してください。

Process count max over

説明:pfile 中の個別部情報 (PENT) 行のエントリ数が多すぎます。

処置:個別部情報 (PENT) のエントリは 256 行以内で指定してください。

Restart_cmd length is too long

説明:pfile 中の再起動スクリプトの指定が長すぎます。

処置:再起動スクリプトは絶対パスで 255 文字以内の値を正しく指定してください。

Restart_cmd must be specified

説明:pfile 中の再起動スクリプトが正しく指定されていません。

処置:再起動スクリプトを正しく指定してください。

なお、再起動スクリプトを省略する場合には、“-” を指定してください。

restart_timeout must be specified

説明:pfile 中の restart_timeout オプションに指定された値が不正です。

処置:restart_timeout オプションを 1~60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

restart_timeout (xxx) must be digit and grater than 0

説明:pfile 中の restart_timeout オプションが設定されていないか 0 以下の値が設定されています。

処置:restart_timeout オプションを 1~60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

restart_waitempty must be specified

説明: pfile 中の restart_waitempty オプションに指定された値が不正です。

処置: restart_waitempty オプションを 1~60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

restart_waitempty (xxx) must be digit and grater than 0

説明: pfile 中の restart_waitempty オプションが設定されていないか 0 以下の値が設定されています。

処置: restart_waitempty オプションを 1~60*60*24 秒の範囲で正しく設定してください(単位は秒)。

retry_count_max (xxx) is illegal parameter

説明: pfile 中の retry_count_max に指定された値が不正です。

処置: retry_count_max を正しく設定してください。

retry_count_max (xxx) must be digit and grater than 0

説明: pfile 中の retry_count_max に 0 より小さい値が設定されています。

処置: retry_count_max を 0~1024 回の範囲で正しく指定してください。

Retry_over_action must be specified

説明: pfile に retry_over_action が指定されていません。

処置: retry_over_action に CONTINUE、SHUTDOWN、EXIT のいずれかの値を指定してください。

Retry_over_action (xxx) is invalid

説明: pfile 中の retry_over_action の値が不正です。

処置: retry_over_action に CONTINUE、SHUTDOWN、EXIT のいずれかの値を指定してください。

SHM_DUMP_FILE length is too long

説明: pfile 中の SHM_DUMP_FILE が指定できる最大長を超えています。

処置: SHM_DUMP_FILE を 128 文字より小さい値で正しく設定してください。

shmget(2) use other process

説明: pfile 中で指定した IPCKEY がすでに使用されています。

処置: 他のプロセスが使用している IPCKEY 以外を 0x00000001~0x7ffffff の範囲で指定してください。

また、該当する IPCKEY のプロセスが動作していないのであれば、ipcrm(8) コマンド等を使用して、共有メモリの回収を行ってください。

SG something wrong.; line = xxx

説明: pfile 中に不正な行があります。

処置: 該当する行の妥当性を確認し、正しく修正してください。

Uid and uname cannot be registered duplication

説明: pfile 中の uid、uname オプションはどちらか1つしか指定できません。

処置: uid または uname のどちらかのオプションのみ指定してください。

Uid (xxx) must be digit and grater than 0

説明: pfile 中の uid オプションに 0 より小さい値が指定されています。

処置: uid オプションは 0 以上の値で正しく指定してください。

Uname (xxx) is wrong

説明: pfile 中の uname オプションに指定されたユーザー名がありません。

処置: uname オプションを正しく指定して、pcheck の再起動を行ってください。

8.2. LOG_WARNING

Can't reload. Something wrong in ['pfile 名']

説明:pfile の再読み込み(reload) に失敗しました。

処置:pfile の妥当性を確認してください。

Can't shutdown ['pcheck 名']

説明:pcheck が終了できませんでした。

処置:kill(2) コマンドを使用して、pcheck を強制終了してください。

fopen (3) fail. pfile = 'pfile 名', errno =yyy

説明:pfile のオープンに失敗しました。または pfile が存在しません。

処置:IPCKEY または個別部情報(PENT) を正しく設定してください。

Invalid line: [xxx]

説明:pfile 中に、不正な行があります。

処置:pfile の該当する行を正しく設定してください。

IPCKEY and process_entry must be specified. pfile='pfile 名'

説明:IPCKEY に不正な値が指定されているか、pfile の個別部情報(PENT) が存在しません。

処置:IPCKEY または個別部情報(PENT)を正しく設定してください。

9. メッセージ出力例

以下に運用時のメッセージの出力例を示します。

9.1. pcheck の起動、停止、再読み込み、再起動

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名', pid=yyy) Up

監視対象プロセスの起動を確認しました。

padmin[xxx]: Command execute. [stop] pfile='監視対象プロセス名'

padmin コマンドを使用して、pcheck による監視を一時停止(stop)しました。

padmin[xxx]: Command execute. [reload] pfile='監視対象プロセス名'

padmin コマンドを使用して、pfile を再読み込み(reload)しました。

padmin[xxx]: Command execute. [start] pfile='監視対象プロセス名'

padmin コマンドを使用して、pcheck による監視を再開(start)しました。

9.2. 通常運用時

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名', pid=yyy) Up

監視対象プロセスの起動を確認しました。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名', pid=yyy] Down

監視対象プロセスの消滅を検知しました。

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの再起動を開始しました。

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名', pid=12240) Up

監視対象プロセスの再開を確認しました。

9.3. リトライオーバー発生時

以下にデフォルト設定(リトライ回数 3 回、Grace 値 86400 秒)の場合に、監視対象プロセスの起動に失敗した例を示します。

① retry_over_action:CONTINUE 指定の場合

pcheck[xxx]: Set pid fail ('監視対象プロセス名')

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(1 回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(2 回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(3 回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

監視対象プロセスの監視に失敗しました(4 回目)。

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名') RETRY_OVER:CONTINUE

設定されたリトライ回数(3 回)を超えたため、retry_over_action の記述に従って、pcheck は起動したまま、監視対象プロセスの監視のみ停止しました。

② retry_over_action:EXIT 指定の場合

pcheck[xxx]: Set pid fail ('監視対象プロセス名')

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(1 回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(2 回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(3 回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

監視対象プロセスの監視に失敗しました(4 回目)。

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名') FATAL

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名') RETRY_OVER:EXIT

設定されたリトライ回数(3回)を超えたため、retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了しました。

③ retry_over_action: SHUTDOWN 指定の場合

pcheck[xxx]: Set pid fail ('監視対象プロセス名')

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(1回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(2回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

pcheck[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの監視に失敗したため再起動しました(3回目)。

pcheck[xxx]: Process ['監視対象プロセス名',pid=yyy] Down

監視対象プロセスの監視に失敗しました(4回目)。

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名') FATAL

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名') RETRY_OVER: SHUTDOWN

設定されたリトライ回数(3回)を超えたため、retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了しました。

9.4. ストール監視運用時

pcheck[xxx]: Set pid fail ('監視対象プロセス名')

pcheck[xxx]: ('監視対象プロセス名', pid=yyy) Up

監視対象プロセスの起動を確認しました。

pcheck:www[xxx]: Find Process Stall : pid = yyy

ストールしたプロセスを検出しました。

pcheck:www[xxx]: PS_EXEC: event occurred. (func=_bi_stall file='ストール検知 DLL 名' result=1)

ストール監視の監視エントリ(PS_EXEC)を実行しました。

pcheck:www[xxx]: Target process not exist: pid = yyyy (0)

ストール状態のプロセスの終了を確認しました。

pcheck:www[xxx]: Killed Process: pid = yyy

ストール状態のプロセスを強制終了しました。

pcheck:www[xxx]: Process ['監視対象プロセス名', pid=yyy] Down

監視対象プロセスの消滅を検知しました。

pcheck:www[xxx]: Try to restart ('監視対象プロセス名')

監視対象プロセスの再起動を開始しました。

pcheck:www[xxx]: ('監視対象プロセス名') RETRY_OVER:EXIT

retry_over_action の記述に従って、pcheck を終了します。

pcheck:www[xxx]: ('監視対象プロセス名') FATAL

pcheck を終了しました。

www は定義したストール監視機能により、それぞれ以下となります。

ファイルの更新時刻によるストール監視	: _bi_stall
ファイルの出力メッセージによるストール監視	: _bi_stall_message
対象プロセスのオープンファイルによるストール監視	: _bi_stall_openfile
対象プロセスの起動スレッドによるストール監視	: _bi_stall_thread

10. 障害解析情報の採取

ProcessSaver 運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順に従って情報採取を行ってください。

10.1. ProcessSaver の障害解析情報

- (1) OS、ProcessSaver のバージョン情報(rpm 相当)を採取します。
 - cat /etc/*-release の実行結果
 - rpm -qai の実行結果
- (2) 事象発生時 syslog を採取します。
 - /var/log/messages
- (3) ProcessSaver の構成ファイル (pfile、再起動スクリプト等すべて) を採取します。
- (4) ProcessSaver 起動時の rc ファイルまたは業務スクリプト等を採取します。
- (5) 以下のコマンド実行結果を採取します。
 - ps -ef
 - ps -efL
 - ipcs
 - /opt/HA/PS/bin/padmin -l
 - /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show param
 - /opt/HA/PS/bin/padmin -f <pfile 名> -c show pent
- (6) ProcessSaver の共有メモリトレースファイルを採取します。
 - pfile の SHM_DUMP_FILE に指定されたファイルおよびそのバックアップファイルすべて
- (7) 障害発生時の操作ログを採取します。

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 1.2 for Linux
syslog メッセージ一覧

2014 年 3 月 第 4 版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番地 1 号
TEL (03) 3454-1111 (代表)



© NEC Corporation 2014

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙